

<南陽通商店街：大阪市（浪速区）>

# いつ来ても発見がある 楽しい商店街をめざして！

～若い世代にも魅力ある商店街づくり～

## 取組みの効果

- ◆ 若い男女の来街者の増加
- ◆ 商店街を担う次世代の安定化
- ◆ 新聞・テレビ等の取材増加  
(年平均 20 件の取材)

## 取組みの内容

- ◆ 空き壁面の有効活用（絵画展、誓いの鍵、恋人たちの真実、写真展等）
- ◆ 「新世界援隊」の結成による周辺商店街との連携
- ◆ 多彩な事業の実施（テーマソング公募、ジャンナリ工等）

## 取組みの背景

南陽通商店街は、浪速区の最南端に位置し、太陽の光がふりそそぐそんな通りということが名前の由来ですが、一般的には※1「ジャンジャン横丁」という方が良く知られている。

本商店街周辺は、通天閣を中心に昭和のレトロな町並みが残っている。

商店街は、飲食店を中心とし、戦後、労働者の町として発展してきたが、バブル崩壊後、景気の後退に伴い建設業が落ち込み労働者の来街者も減少していった。

〈商店街データ〉

- 所在地 大阪市浪速区恵美須町 3-4-14
- 立地 大阪市営地下鉄「動物園前」駅から約50m
- 店舗数 40店
- 問合せ 南陽通商店街振興組合  
理事長 大西幸次郎  
Tel 06-6641-2420

一方で、新世界と天下茶屋を舞台として平成8年に放送されたNHKの連続テレビドラマ「ふたりっこ」の放送がきっかけとなり、来街者が労働者から観光客へと変化していった。

また、映画やテレビの撮影場所の見学者や串かつ店がテレビやグルメ雑誌に紹介されたことで、串かつ目当ての来街など観光地化しつつある。

しかし、近年、通天閣の来場者数も頭打ちとなりつつあり、また、50代以上の女性にはいまだ、本商店街のイメージは危険というイメージがある。



※1 ジャンジャン横丁の由来：南陽通商店街は、通天閣と飛田

遊郭（西成区）を結ぶ道筋に当たり、戦後間もない頃、立ち飲み屋や射的等の店が多く立ち並んでおり、遊郭に向かう客に向かって、ジャンジャン（三味線）ドンドン（太鼓）など鳴り物入りで、競って各店は呼び込みをやっていたことから「ジャンジャン町」「ジャンジャン横丁」と呼ばれるようになったそうである。

## 取組みのきっかけ

当時副理事長（平成 12 年頃）であった大西理事長が、組合の会合終了後、2代目の若手の一人に何か言いたいことがあるか聞いたことが始まりであった。

理事長は、話を聞くので、他にも話したい若手がいれば一人だけ誘っていいと言う条件をつけ、その誘われた一人がまた一人を誘っても良いということで意見を聞く場を設けたところ2代目の若手数名が集まったそうである。

集まった若手たちは、商店街でこのようなことがしたいという意見を自ら出し合い、それを理事長は様子を見ながら聞き入っていたそうである。

これがきっかけとなり新世界の2代目の若手の会「新世代」が発足、1年目はいろんなアイデアを話し合い、発足2年目以降から写真展をはじめアイデアを実現していったそうである。



## 活性化の要因

- ◆ 話題性を重視し、新聞やテレビなどマスコミ受けするような事業を積極実施
- ◆ 様々な事業を行うことで、面白い・新しい発見につながり、若い客が増える仕組みを作り、若い客をターゲットに楽しんでもらえる企画を実施
- ◆ 映画のタイトル(世界の中心で、愛をさけぶ)や海援隊といった聞きなれたフレーズをもじった、イベント名や組織名を活用
- ◆ 新世代メンバーの企画意見は、できる限り実行することで、若手のやる気を醸成

### 愛シリーズの取組み



カップルが南京錠に名前や願い事を書き、特定の場所に南京錠をかけることで、いつまでも一緒にいることを誓い合うというおまじないです。(写真左)

イタリアの真実の口にならってビリケンさんの口の中に手を入れ彫られている文字を手の感触で読み取るというもの(写真右)



筒に5本の赤い紐を通し両サイドから一本を選び、引っ張りあい同じ紐を引くことで愛を確認するというもの。(写真左)

## 事業の仕組み

「新世代」は、お金をかけないでアイデアを出し合い、来街者に体験して楽しんでもらえるように考えている。また、自分たちでできることは自分たちで行うことによってスピード感を持って実行している。

許認可の必要な事業（看板の設置等）は、行政との連携を図りながら実施。また、地域連携を図り、2年前に周辺20町会連合会の若手で、「新世界援隊」を結成（2011年現在30名）、「新世界援隊」は、町会のP大大使としてストリートライブや<sup>※2</sup>ジャンナリエを開催している。「新世代」と「新世界援隊」で、事業を区別し、お互いに協力し合い商店街と地域での活性化を図っている。

<sup>※2</sup>ジャンナリエ:商店街のイルミネーションを、ジャンジャン横丁にちなんでジャンナリエと命名

## 取組み上の工夫や苦労

「新世代」の規約では代表を持ち回りし、2カ月に1回会議を行い、召集も持ち回りとし、すべての会員が会議の段取りから進行を経験するようにしている。

いつまでもブームによるお客が来るわけではなく、ブームが来ているうちに手を打つようにしている。

金銭的に余裕がないので、かえっていろいろなアイデアが出てくる。それをできる限り全て実行するようにし、個人の得意分野を生かすようにしている。

商店街のキャラクター

「ジャンジャンキタロー」もデザインを得意



とする「新世界援隊」のメンバーが作成、企業に著作権を出すことでキーホルダーやストラップを作成した。

## めざす商店街像（今後の展望）

2012年7月に初代通天閣及び<sup>※3</sup>ルナパーク（月の園）が完成してから100周年を迎える、これを記念して、2012年7月28日（なにわの日）に新世界ペアリンピックを計画中。

2011年7月は、プレイイベントとして、ゲートボールで、ボールを打って7.28mに近づくように止める、串かつ用の串を掴み取りし7.28gになるように競う、7.28mのうどんを切らずに食べる等誰もが参加しやすく、楽しめる競技を実施した。

時計を見ずに7分28秒間キスをするというアイデアもあったがこれは没となったということであった。競技内容は、すべて、なにわの日（7月28日）にちなんで「728」の数字にこだわった競技を実施。

とにかく、アイキャッチができるかが大事、そこで入り口に入るかどうかの判断になる。

だから、情報発信は常にしていく必要があるので、ブログの担当者も決め、「新世界」の情報ブログ、新世界・ジャン横ニュースで最新情報を発信している。

マスメディアを広報媒体としてこちらから依頼するともものすごく経費がかかるが、取材を受けるとなれば経費はかからない、それどころか経費換算するとももの

すごく広報費用を投じているのと同じ効果がある。

今でも年間 20 件ほどテレビ取材等の依頼があるが、これからも取材依頼が来るように、お金をかけずにアイデアやいろいろな組織や企業を巻き込むことでマスメディアに注目されるとともに、ジャンジャン横丁に来るといつもおもしろい発見があり、来て楽しかったと思える商店街にしたい。

※3 ルナパーク：新世界の一部を、ニューヨークのコニーアイランドを模して造られた都市型遊園地。空間の中央をルナパークと名づけた 1912 年(明治 45 年)開園、1923 年(大正 12 年)閉園

## こぼれ話(失敗談)

アーケードの上に太陽光や風力発電など自然エネルギーを利用した照明を設置しようということで、賛同者はこの指と〜まれということで 5 人集め、アーケード連絡協議会に申請し設置したそうである。そして、照明を点灯したが電力不足で商店街内が暗いため、電源を自然エネルギーから元に戻したそうである。しかし、新聞に載り広報効果はあったという。

自然エネルギーは、商店街の照明には活用できなかったそうだが、しばらく誓いの鍵を照らす LED と点灯時間を調整するタイマーの電源として使用していた。しかし、電力供給が不安定であったためタイマーが正常に働かないこともあり、今は自然エネルギーを使用していないとのことである。

商店街を照らす照明としての自然エネルギーは利用できなかったが、この取り組みにより商店街の組合員の省エネ意識は

高まったという。

アーケードを改修して 8 年ほど経過した時に、まだ蛍光灯が使用できるにもかかわらず、省エネ型の蛍光灯に交換しようとの声があり交換に踏み切ったことがあった。この交換により電気代が 3 割程度の減となり経費節減となったとのことである。

## 取材を通して

2012 年の新世界 100 周年に向け、2011 年イベントを実施した。

大西理事長は、イベントは失敗してもいいのだと言う、失敗することで来年に向けた反省材料となり、反省点を検証することで本番に生きるのだと言われる。

このような大西理事長のポジティブな考え方が、「新世代」や「新世界援隊」といった次代の商店街を担う 2 代目に影響し、アイデアを実現する行動力につながっているのではないだろうか。

今後、理事長はお金をかけず、アイデアで情報発信、いろいろな組織を使ってプロデュース的な役割を担い、そういう動きで、企業の巻き込みを進めていきたいとのことである。

大西理事長は、地域との連携を図り、若手にやる気を出させ、地域の特徴をうまく生かしながら、常に情報発信ができるように工夫されていると感じた。